

広州アジア大会のドラゴンボート男子1000メートル敗者復活戦でスタートする日本チーム④(共同)



初のドラゴンボート 日本は8位

【広州＝共同】龍の頭と尾をかたどった細長い舟で順位を争うユニーク競技、ドラゴンボートが18日、広州アジア大会で初めて実施された。緑いっばいの山に囲まれた中国の広州市内の湖には早朝から多くの観客が駆け付け、さながらお祭りムードが漂った。

約2300年前、中国の春秋戦国時代が起源とされる。派手な黄色に塗られた舟には22選手が乗り込んだ。先頭の1人が掛け声とともに、太鼓を激しく打ち鳴らす。最後方のかじ取りが大声で、2列に並んだ20人のこぎ手に指示を出すと、オールから大きな水しぶきが上がった。

日本は男子のみの出場。兵庫県相生市に拠点を置く磯風漕友会で、看護師を中心にチームを組んだ。最初の1000メートルは8位に終わった。

日本息切れ8位

ドラゴンボート

息切れ。4列目で漕ぐ藤原啓は「国内大会は250メートルがほとんどなので、そこが勝負。表彰台に立

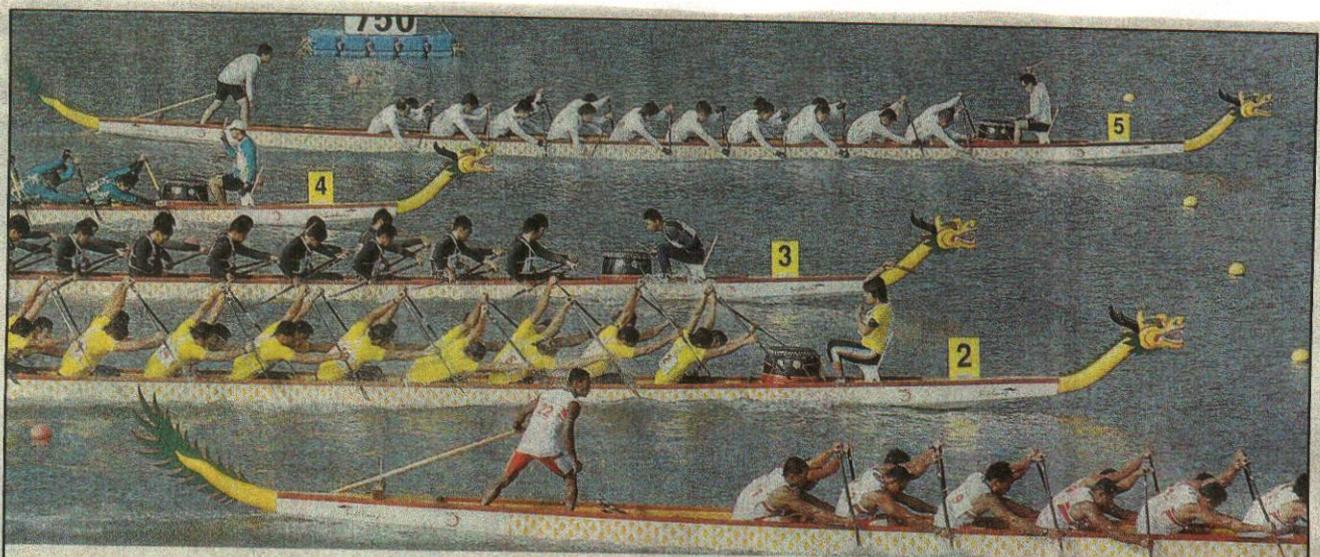
つつもり」と20日の男子250メートルに意欲を見せた。男子チームは7月に大阪で行われた日本国際ドラゴンボート選手権大会で磯風漕友会として制し、出場権を得ていた。

今回から採用され、男子1000メートルの7、10位決定戦で日本は2着となり、8位だった。インドネシアが優勝。女子は中国が制した。日本は予選、敗者復活戦、7、10位決定戦の3レースとも序盤から飛ばし、終盤に

▽男子1000メートル10位決定戦
◎日本3分51秒588

2010年(平成22年)11月18日 木曜日

享月 日 業斤 局局 (夕刊)



新競技「ナース」の大仕事

【広州＝平井隆介】当地で開かれているアジア大会で18日、新競技のドラゴンボートが始まった。へさきに竜の頭をデザインした船で、こぎ手の息を合わせてタイムを競う。中国生まれの競技に挑む日本代表＝写真上回番、西畑志朗撮影＝は「ナース」の集まりだ。過酷な夜勤明けに疲れを押して海へこぎ出し、練習を重ねてきた。

「磯風漕友会」の24人で、ほとんどが兵庫県の相生市看護専門学校のOBや在校生。近隣の病院に勤務したり、将来を目指して勉強したりしている20～30歳代の男性看護師たちだ。同校の教師でもある河田英幸コーチ(46)らが、12年前にチームを立ち上げた。「看護師を目指す以外にも、何かで一番になって自信をつけさせたかった」



ドラゴンボート アジア

大会では1チーム22人。こぎ手は20人で、1人は船尾でかじを取り、もう1人は船首で太鼓をたたいてピッチを伝え、気持ちを鼓舞する。発祥は中国で、紀元前300年ごろの楚の国の詩人で政治家だった屈原の伝説が起源だと伝えられる。川に身を投げた屈原を慕う漁民らが小舟でこぎ出し、屈原が魚に食べられないようドラや太鼓を打ち鳴らして探したことが由来という。